

患者支援に県民会議

水俣病 県総評、発足決める

県総評（馬場昇議長、六万五千
人）は十五日、熊本市九品寺の労
働会館で執行委員会を開き、水俣
病患者支援組織として、近く「水
俣病・公害対策県民会議」を発足
させることを正式に決めた。

同会議は、学者、医師、労組で
構成、三者による代表幹事制をと
って運営を民主化し、水俣病患者
家庭互助会（山本亦由会長）がチ
ツソを相手取って公害訴訟を起こ
した場合、全面的に支持するため

のもの。このため、さる十月の定
期大会で組合員一人百円の義務力
ンパを行なうことを決定してお
り、現在集計中。

また、現在患者互助会は会社側
と補償交渉を行なっているが、こ
れを支援するため、越年資金の贈
与など交渉過程での生活面での援
助を考慮している。患者の医療、
看護、子どもの患者の教育などの
面でも互助会側の希望に沿って今
後必要な運動を行なう。数日中に

発起人会を開くが、これに先立つ
て本田事務局長が水俣市へ出向
き、互助会側の意向を聞く。

このほか、県民に水俣病の悲惨
さ、工場の無責任さ、現在患者の
置かれている状態などを広く訴え
るために、パンフレットの作成や
熊本医学部の水俣病関係教授、公
害学者などによる講演会の開催な
どを計画している。